

Heita Yui: Saxophone Recital

演奏動画のご案内

新型コロナウイルス感染拡大による2020年初夏の自粛期間に、各地の自治体で芸術・アーティスト支援の事業が行われました。その中で、東京都に拠点を置くアーティストを対象とした芸術文化活動支援事業『アートにエールを!東京プロジェクト』(東京都)と、長野県ゆかりのアーティストを対象とした支援事業『頑張るアーティスト応援事業』(長野県)の2つの事業で、由井平太の演奏動画が採択されました。ぜひご覧ください。両作品ともに、長野県山ノ内町出身でパリ在住の山本哲也による作曲です。

由井 平太(サクソフォン奏者)<http://yuisax.com/>

山本 哲也(作曲家)<http://www.tetsuyayamamoto.net/jp/>

「アートにエールを!東京プロジェクト」(東京都)採択作品

バリトンサックス四重奏《チャラサックス》



【YouTube】https://youtu.be/c6eQlIT7k_c

2009年、作曲家の山本哲也によって通常の四重奏(SATB)編成で作曲され、由井平太が初演に携わった作品です。今回、作曲者自身によってバリトンサックス四重奏にアレンジされ、多重録音で収録しました。上記URLの動画は、「アートにエールを!東京プロジェクト」に掲載された動画を、改めて編集した動画です。

「頑張るアーティスト応援事業」(長野県)採択作品

薄明のピトレスク／作曲:山本哲也／サクソフォン:由井平太



【YouTube】<https://youtu.be/Wtm6VdhIpgA>

長野県ゆかりの支援事業『頑張るアーティスト応援事業』で掲載されている動画です。

(楽曲については、本公演の曲目解説をご覧ください。)

本公演のアンケートにご協力を願いいたします。

下記URL、または右記QRコードから、本日の公演のアンケートにご回答いただけます。

<https://forms.gle/jpdSt2X38gn5Dvzs9>

また、今後の由井平太のコンサート等のご案内をお送りしても差し支えない方は、ご住所・お名前をお書きいただき、メールアドレスcontact@yuisax.comまでお送りください。

今後の公演の参考とさせていただきますので、ぜひご協力ください。



由井 平太 サクソフォン リサイタル

開場 18:30
2021 1.22 fri. 開演 19:00

長野市芸術館 リサイタルホール

後援:長野市／長野市教育委員会／日本サクソフォーン協会

主催・お問い合わせ:由井平太サクソフォンリサイタル実行委員会

TEL. 090-4727-4554 Mail. contact@yuisax.com

ご挨拶

本日は、由井平太サクソフォンリサイタルへのご来場、ありがとうございます。

昨年から、新型コロナウイルスによって私たちの生活は一変しました。多くの方がその影響を受け、大変な思いをされていることだと思います。

音楽・芸術もそうした社会の変容に大きく翻弄された分野の一つです。しかし、このコロナ禍の中で、音楽・芸術分野は、取り巻く状況は厳しかったものの、幸いにも社会の注目を浴びることのできた分野だったように思います。各自治体や行政などによる、文化・芸術活動の事業継続のための支援もありました。本日、公開初演となる《薄明のピトレスク》も、私の友人でフランス・パリ在住の作曲家、山本哲也くんとの共同プロジェクトとして、長野県のアーティスト支援事業「頑張るアーティスト応援事業(長野県文化振興基金事業)」の助成を受けて2020年6・7月に制作された作品です。

このコロナ禍での一年余り、失われた演奏機会や文化的損失は、多大なものになりました。音楽という形のない芸術文化において、有形無形で襲い掛かるコロナ禍の影響は計り知れません。そんな中だからこそ、感染拡大防止の対策を十分に実施して感染拡大のリスクを無くす社会的責任を果たした上で、音を紡ぎ、演奏を続けていく責務が、私たち音楽家にはあると私は信じています。そして、その歩みを応援してくださる皆さんに、心から感謝申し上げます。

そして本日のリサイタルが、皆さんにとってのかけがえの無い時間となりますように。

由井 平太

感染拡大防止対策について

(皆さんに安心して公演をお聴きいただけますよう、ご確認ください)

- 会場内ではマスクの着用をお願いいたします。マスクを着用していないお客様のご入場は、お断りさせていただく場合があります。
- 会場は座席数を減らし、座席の間隔を空けております。カバーのついている座席は着席されないようにお願いいたします。
- 公演当日、37.5°C以上の発熱がある場合、入場をお断りいたします。また、発熱や風邪症状がある場合は、ご観賞をご遠慮ください。
- 手指の消毒へのご協力、他のお客様との間隔確保にご協力を、お願いいたします。
- 専用の用紙へのお名前と連絡先のご記入にご協力ください。終演後、ご退場時に回収をさせていただきます。ご記入いただいた内容は、感染者が確認された際に保健所へ報告するためにのみ利用し、公演後1ヶ月で適切に破棄いたします。
- 厚生労働省の接触確認アプリ『COCOA』の利用にご協力ください。インストールされているお客様は、スマートフォンは音が出ないようマナーモード等に設定していただき、公演中も電源は切らないでください。
- 首都圏からの移動を伴う出演者は、事前に検査によって新型コロナウイルスの陰性を確認するとともに、感染予防を徹底しています。
- 終演後は分散退場にご協力をお願いします。座席のブロックごとに退場のご案内をいたしますので、アナウンスがあるまで座席でお待ちください。
- 公演後の出演者によるロビーでのお見送りはおこないません。また出演者への差し入れ等はご辞退申し上げます。恐れ入りますがご了承ください。

出演者プロフィール

由井 平太 Heita YUI, Saxophone



長野県長野市出身。長野県屋代高等学校、昭和音楽大学を経て、2014年に同大学院音楽研究科修士課程を修了。サクソフォンを中村均一、武藤賢一郎の各氏に師事。また、国内外のマスタークラスで、C.ドゥラングル、J=Y.フルモー、V.ダヴィッドの各氏をはじめ、著名な演奏家に師事、研鑽を積む。室内楽を榮村正吾、松原孝政、武藤賢一郎、霧生吉秀の各氏に師事。指揮法を田中一嘉氏に師事。

大学在学中より、様々な演奏会に出演。2012年7月に渡仏し、フランス・ギャップでのヨーロッパ夏期大学に参加。2014年3月、ドイツ・フランクフルトで開催されたムジークメッセ2014に招かれ演奏をおこなう。2015年10月、パリトンサクソフォン奏者としてサクソフォン四重奏団“OXAS”的デビューリサイタルを、東京・浜離宮朝日ホールで開催。また、2016年6月には自身初のソロリサイタルを長野市芸術

館開館記念共催事業として同館で開催し、好評を博した。2016年から毎年12月に、長野市において『サクソフォーン四重奏で聴くクリスマスコンサート』シリーズを企画・主宰(2020年は休止)。

サクソフォン奏者としてソロや室内楽などの公演、吹奏楽、オーケストラのエキストラなどに幅広く活動する他、中学・高等学校、市民吹奏楽団などの指揮・指導、編曲にも携わる。

サクソフォン四重奏団“OXAS”的結成時からパリトンサクソフォン奏者として参加、現在は同カルテットのソプラノサクソフォン奏者。長野県若手芸術家支援事業Next登録アーティスト。宮坂音楽教室サクソフォン講師。レッスンスタジオ&音楽サロンHuit主宰。桐朋学園大学音楽学部嘱託演奏員。

ウェブサイト <http://yuisax.com>

大嶋 千曉 Chiaki OSHIMA, Piano



第6回茨城県学生ピアノコンクール第2位。第1回東関東学生ピアノコンクール第3位。第17回ヤングアーチストコンクール連弾部門最高位。第13回日本アンサンブルコンクール管・打楽器ピアノデュオ部門優秀演奏者賞及びアルソ出版社賞。第9回横浜国際音楽コンクール優秀伴奏者賞。第14回大阪国際音楽コンクールデュオ部門第1位及びジャーナリスト賞。アジア国際音楽コンクール2013伴奏部門第2位。

東京音楽大学を経て、同大学院伴奏科科目等履修生修了。オペラのコレベティールとしても、数多くの公演に携わる。京成ホテルミラマーレ、音楽ビヤプラザ銀座ライオン各レギュラーメンバー。2020年にリリースされたCDアルバム「Sign」にて、サクソフォン奏者山浦雅也と共に演。

洗足学園音楽大学演奏補助要員。フェリス女学院大学音楽学部副手。

プログラム

ジュール・ドゥメルスマン:創作主題による幻想曲

Jules Demersseman(1833-1866):Fantasie sur un theme original(1860)
(約6分半)

ダリウス・ミヨー:スカラムーシュ 作品165c

Darius Milhaud(1892-1974):Scaramouche op.165c(1937)
(約9分半)

アレクサンドル・グラズノフ:サクソフォン協奏曲

Aleksandr Glazunov(1865-1936):Concerto en Mi_b(1931)
(約14分)

— 休憩 (20分) —

山本 哲也:薄明のピトレスク

(由井平太委嘱作品・長野県頑張るアーティスト応援事業採択作品)
Tetsuya Yamamoto(b.1989):Pittoresque au crépuscule(2020)
(約7分)

フィリップ・スパーク:パントマイム

Philip Sparke(b.1951):Pantomime(1987)
(約8分半)

ロベルト・モリネッリ:ニューヨークからの4つの絵

Roberto Molinelli(b.1963):Four Pictures from New York(2001)
(約20分)

曲目解説

ジュール・ドゥメルスマン:創作主題による幻想曲

Jules Demersseman(1833-1866):Fantasie sur un theme original(1860)

ベルギーとの国境近くのフランスの町オンショオットに生まれたドゥメルスマンは、19世紀半ばのフランスを代表するフルート奏者の一人です。また作曲家としても、フルートのための作品や、まだ発明されて間もないサクソフォンのための作品など、多くの楽曲を残しています。

サクソフォンはアドルフ・サックスによって発明され、1846年にフランスのパリで特許が取られました。アドルフ・サックスと親交のあった作曲家が当時、この歴史の浅いサクソフォンという楽器のためにいくつもの作品を残しており、このドゥメルスマンの作品もそうした作品の一つです。世に出て間もない楽器は、まず多くの人にその楽器の魅力を知ってもらわなければなりません。この《創作主題による幻想曲》も、「新しい楽器」サクソフォンの魅力を存分に伝えるべく、速いメッセージの超絶技巧やメロディックな美しい旋律が次々と現れ、聴き手を幻想の世界へと誘います。

ドゥメルスマンは33歳の若さで結核によりパリでこの世を去りました。

ダリウス・ミヨー:スカラムーシュ 作品165c

Darius Milhaud(1892-1974):Scaramouche op.165c(1937)

フランス6人組の一人として挙げられるミヨーは、南フランスのエクス=アン=プロヴァンスに生まれ、スイスのジュネーブで亡くなった作曲家。指揮者やピアニストとしても活躍していました。17歳でパリ音楽院のヴァイオリン科に入学するものの、彼の興味は演奏から作曲へと移り、ポール・デュカスやアンдре・ジェダルジュラに作曲を学びます。こうして作曲家としての才能を開花させるのと同時期、詩人であり外交官としても知られるポール・クロードルとも友情を深めました。

1917年から1918年にかけて外交官としてブラジルのリオデジャネイロに赴任したクロードルに、ミヨーも秘書官として同行します。ここで出会ったブラジルのリズムは、ミヨーの作風に大きな影響を及ぼしました。《スカラムーシュ》op.165cは1837年の劇付隨音楽《空飛ぶお医者さん》op.165aから改作されたもの。このサクソフォンとピアノ(またはオーケストラ)の版の他に、最も有名であろう2台ピアノのための版(op.165b)やクラリネットとピアノ(またはオーケストラ)のための版も知られています。

スカラムーシュという曲名は、イタリアのコンメディア・デッラルテと呼ばれる即興喜劇の様式の道化役の呼び名に由来し、様々な作曲家が同名の楽曲を残しています。ミヨーの作品は3つの楽章からなり、1楽章がユーモラスで躍動的なメッセージが並ぶ「Vif(速く)」、2楽章が抒情的な「Modéré(中庸な速さで)」、3楽章の「Brazileira(ブラジルの女)」では、ミヨーがブラジル滞在中に出会ったブラジルのサンバのリズムの影響が色濃く反映された、明るく、華やかな楽章で幕を閉じます。

アレクサンドル・グラズノフ:サクソフォン協奏曲

Aleksandr Glazunov(1865-1936):Concerto en Mi_b(1931)

サクソフォンが生まれて間もない19世紀半ば、時代はロマン派ではあるものの、サクソフォンのために書かれた独奏曲は古典派の香りが強く漂う作品が多くあります。ドゥメルスマンの作品のように素晴らしい作品が数多くあるものの、当時のサクソフォンの曲を作った作曲家が、必ずしも音楽史に名を刻むような、ロマン派の時代を切り開く作曲家ではなかったことも、その背景にはあります。

一方、20世紀以降の作品では、マルセル・ミュールなどサクソフォンの名演奏家の登場と楽器の知名度が向上したことによって、時代の先端を行く近現代の様々な作曲家が、サクソフォンのための作品を残しています。その結果、サクソフォンのために書かれた独奏曲に、クラシック音楽で人気の高い、ロマン派の様式による音楽が少ないという現象を引き起こしました。

そうした中で、ロマン派の流れを汲むロシアの作曲家、グラズノフによるサクソフォンのための作品は、サクソフォンのための作品としては非常に貴重で、重要なレパートリーです。グラズノフは1928年にパリに移住した後、《サクソフォン協奏曲》(1931)と《サクソフォン四重奏曲》op.109(1932)の二つのサクソフォンのための作品を残しました。

この《サクソフォン協奏曲》は単一楽章ではあるものの、楽曲は急・緩・急の3つの部分に分けることができます。古典的な3楽章形式の協奏曲の様式を踏襲しているとも言えるでしょう。本日は伴奏の弦楽オーケストラがピアノにリダクションされたバージョンで、熟成したロシア・ロマン派の重厚でドラマチックな音楽をお聴きください。

山本 哲也:薄明のピトレスク(由井平太委嘱作品・長野県頑張るアーティスト応援事業採択作品)

Tetsuya Yamamoto(b.1989):Pittoresque au crépuscule(2020)

薄明の時…夕暮れの時間には多種多様な色が混在します。その昼と夜との境目の彩は美しさの象徴としてはもちろん、時にその深さは恐怖の対象ともされました。絵画的なその彩はサクソフォンの微分音程…半音のさらに半音や、特殊な奏法で紡がれる様々な音やリズムで、光と闇の間を揺れ動きます。その不安定な時間を貫く不気味なEフラットの持続音は、確固たる道しるべとしての光でもあるのです。(由井平太)

長野県文化振興基金「頑張るアーティスト応援事業」の一環として、由井君とタッグを組んで昨年6月に作曲し、8月に由井君自身の演奏・編集による映像がYouTubeで公開された。本公演がコンサートでの初演となる。

由井君から作曲の提案を聞いた際に、コロナ禍での芸術支援の企画が絡むということで、当時我々が直面していた状況と少しでもリンクした作品にしたいと考えた。そこでまず思い出したのは、2019年の冬に訪れたアルザス地方の街並みのことだった。アルザス地方はフランスの歴史を辿ると他国からの占領と奪還を繰り返した重要な土地であるが、フランス国内で最初期にCovid-19が大きく流行した街でもある。私が訪れたストラスブールとコレマールは「絵画のように美しい」という意味を持つ「ピトレスク」という言葉がぴったりの景観で、薄明かりの街並みの中からぼんやりとした光が、色彩や質感を伴いながらゆっくりと明滅していく様子をイメージして作曲を進めた。書き終えた後、パリに住む私と日本に住む由井君とで中継を繋ぎ、リハーサルを通して細部の調整を行い、最終稿が完成された。(山本哲也)

山本 哲也(作曲家)プロフィール

1989年生まれ、山ノ内町出身。須坂高等学校、国立音楽大学音楽文化デザイン学科を卒業、同大学院修士課程作曲専攻を修了後に渡仏、マルセイユ地方音楽院作曲科上級課程、リヨン国立高等音楽院作曲科修士課程を修了。第14回オルレアン国際ピアノコンクールのA.シュヴィロン=Y.ボノー作曲賞(2020)、第13回フランス・エスクデロ国際作曲コンクール第1位(2020)、イル=ド=フランス国立管弦楽団主催の作曲コンクール「Île de créations 2018」優勝、第6回A.ドヴォルザーク国際作曲コンクール第1位および特別賞(2015)、日本現代音楽協会第27回現音作曲新人賞(2010)など、国内外の多くのコンクールや作品公募において受賞・入選を重ねている。パリ在住。

WEB: <http://www.tetsuyayamamoto.net>

フィリップ・スパーク:パントマイム

Philip Sparke(b.1951):Pantomime(1987)

本日のプログラムで唯一、サクソフォンのために書かれた楽曲ではないのが、このスパークのパントマイムです。スパークは、特にブラスバンドや吹奏楽作品で知られるイギリスの作曲家。《パントマイム》はユーフォニアムの独奏とブラスバンドのために作曲されました。このパントマイム(無言劇)という曲名も、前述のミヨーの《スカラムーシュ》と同様にイタリアのコメディア・デッラルテに由来しています。その即興喜劇の中での様々な感情や喜憂が、作品の中に明瞭に表現されています。

この作品の楽譜にはユーフォニアムのためのパート譜として、ヘ音記号の実音で記載された楽譜と、ト音記号の変ロ調で記載された楽譜の2種類が使われています。近年、変ロ調のテナーサクソフォンで、このユーフォニアム用の変ロ調の楽譜を使って演奏される機会が増えていました。

ロベルト・モリネッリ:ニューヨークからの4つの絵

Roberto Molinelli(b.1963):Four Pictures from New York(2001)

モリネッリはイタリアの作曲家、指揮者、ヴァイオリン奏者です。ヨーロッパから見た「世界で最も有名で最も普遍的な大都市」のイメージを描いたと作曲家が述べているこの《ニューヨークからの4つの絵》は、2001年にサクソフォンとオーケストラのために作曲されました。作品の高い人気から、本日演奏するサクソフォンとピアノのバージョンや、独奏サクソフォンと吹奏楽、サクソフォンのラージアンサンブル、弦楽アンサンブルなど、様々な編成による版があります。曲は4つの樂章からなり、ソプラノ、アルト、テナーの各サクソフォンを持ち替えながら、ビッグ・アップル(ニューヨーク)の朝から晩までの情景を映し出します。

1. Dreamy Dawn(夢のような夜明け)

ピアノの雄大な序奏と、続くソプラノサクソフォンの穏やかなメロディーが、靄のかかった摩天楼に日の光が差し込み、ニューヨークの活気あふれる1日の始まりを想起させます。

2. Tango Club(タンゴクラブ)

アルゼンチンタンゴの様式で書かれ、タンゴの革命児とも呼ばれるアストル・ピアソラと、ニューヨーカーに捧げられた樂章。ピアソラと特に関わりが深く、今でも彼の音楽が愛されているニューヨークのタンゴクラブの熱氣と喧騒が描かれます。

3. Sentimental Evening(センチメンタルイブニング)

夕暮れのニューヨーク。ジャズバーでのジャズトリオの演奏を思い起こさせる、ジャズバラードです。色気のあるテナーサックスのバラードやピアノのインプロヴィゼーションが、ニューヨークの大人の時間を演出します。

4. Broadway Night(ブロードウェイナイト)

ニューヨーク、マンハッタンのエキサイティングな夜の時間が始まります。タイムズスクエアの煌めく電飾や、ブロードウェイミュージカルの熱狂が輝かしく描かれます。

レッスンスタジオ & 音楽サロン *Huit*

Lesson Studio & Music Salon

サクソフォン・レッスン

演奏依頼

Saxophonist 由井 平太



ユイット

2020年1月に長野市川中島町に開設した、サクソフォンのレッスンのためのスタジオ兼サロンです。サクソフォン奏者の由井平太によるプライベートレッスンを月1~2回、おこなっています。
<https://www.naganohuit.com/>

【サクソフォン・レッスン】

日程 / 月1~2回(不定期)、土・日・月曜日が中心となります。

1時間レッスン(通常のレッスン) ¥5,000／回

音大受験のためのレッスン ¥10,000／回

初心者から音大受験等を目指す上級者まで、一人一人の上達を丁寧にサポートします。

楽器購入時の選定などもご相談ください。詳細はウェブサイトをご覗ください。

